

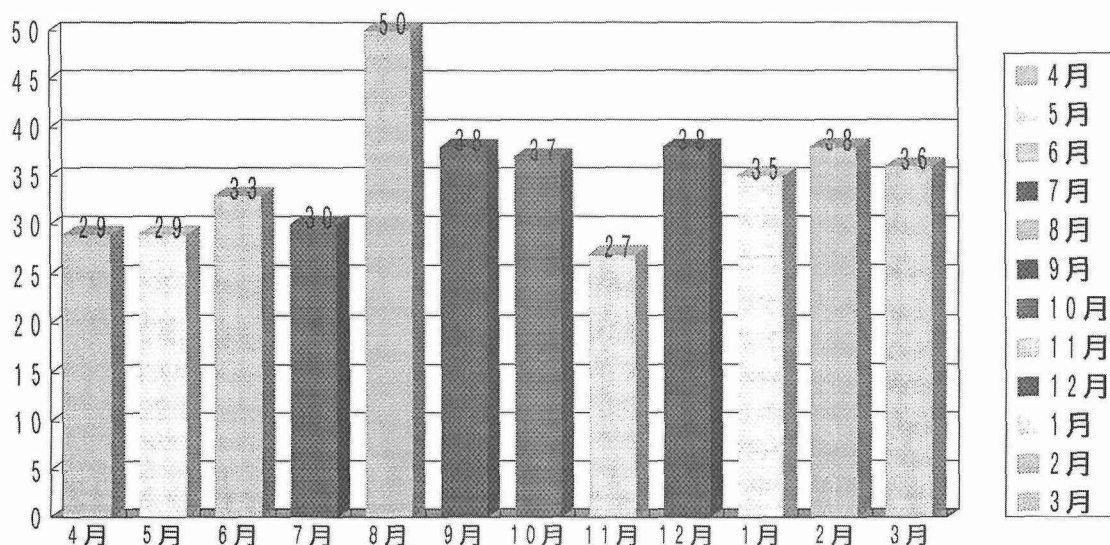
①年間インシデント分析

年間のインシデント数は420件であった。月当たりのインシデント発生数は30-40件で一定している(下図参照)。病院のシステム改善のために、基礎となるデータの収集は良好になされている。このうち、患者さんに後遺症を残したり、死亡した例は皆無であった。多くは、ヒヤリ・ハットの段階で気づかれて、報告されている。患者さんに何らかの医療処置を必要としたレベル3のものは45件(11%)であった(下図参照)。このレベル3の事案につき、もう少し詳しく分析したい。

月別件数

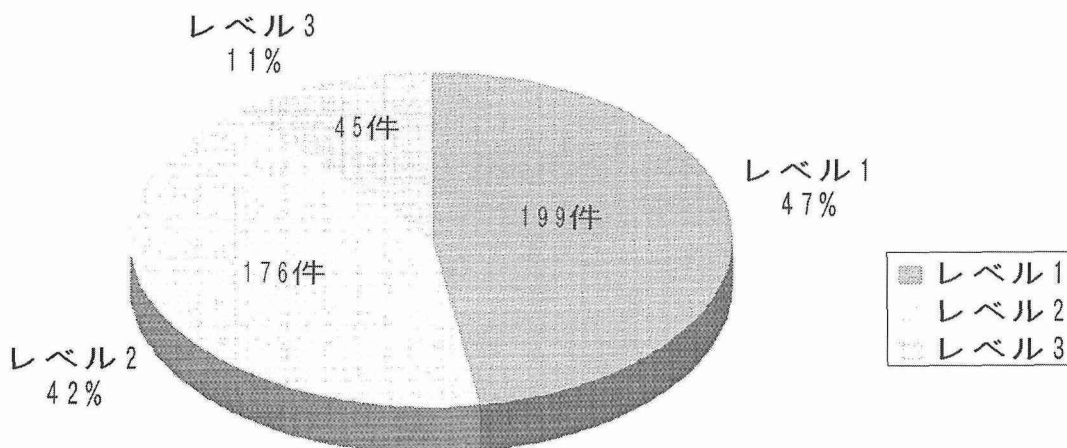
n=420

Average=35



事故レベル別件数

n=420



②インシデント（レベル3）分析

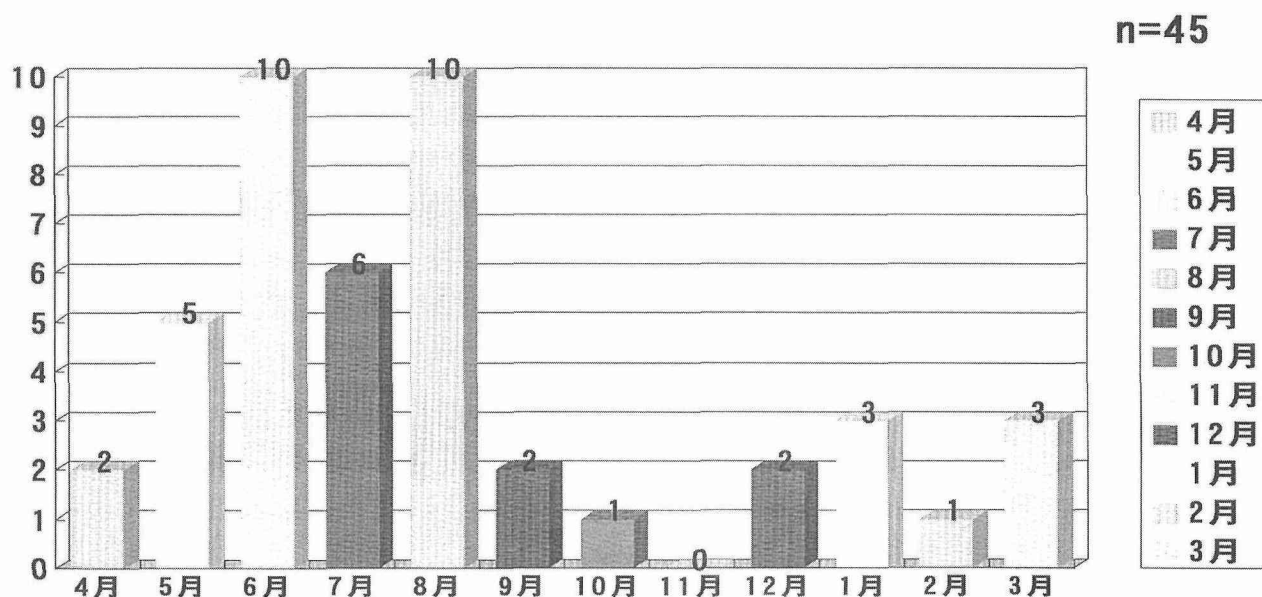
職種別には看護師・准看護師が43件、ケアワーカーが2件であった。また部署別には、5・6階病棟が23件と半数を占めた。月別件数では、8月までに集中している（下図参照）。そして経験年数別では半年未満が14件と3分の1を占めた。これらのことから、次のようなことが理解される。

4月に入職した新人が慣れるまでの3-4ヶ月の間に、特に5・6階の療養病棟でレベル3の事故が多かった。介護度の高い患者さんへの医療提供の難しさを痛感させられます。

看護部	件数
5階病棟	10
6階病棟	13
7階病棟	7
8階病棟	5
9階病棟	1
透析	9
合計	45

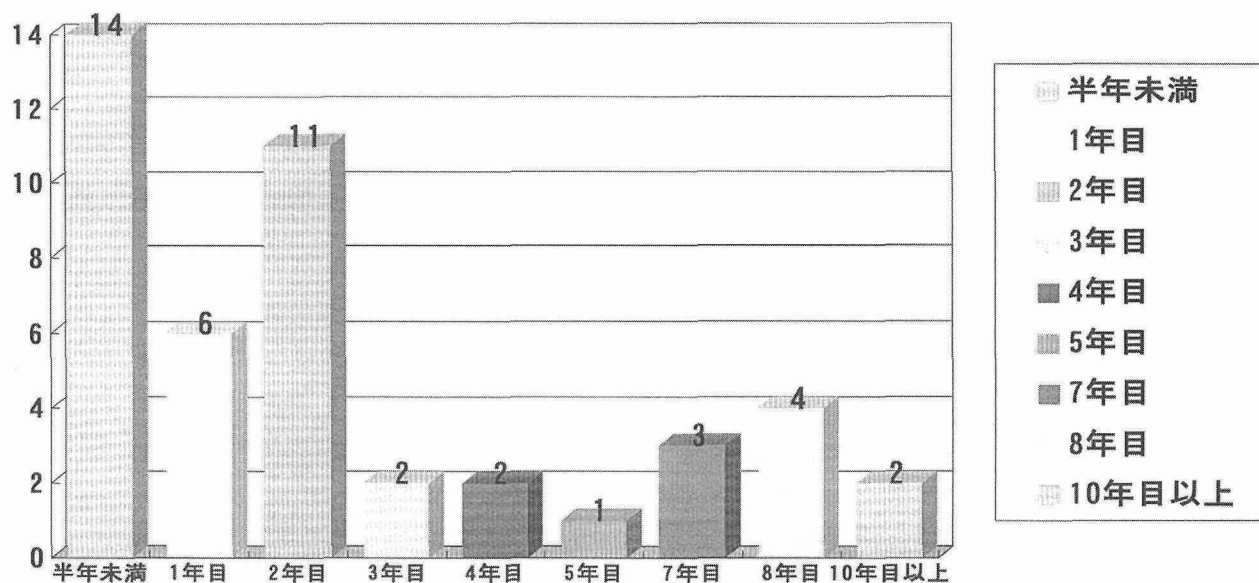
職種別件数	件数
看護師・准看護師	43
ケアワーカー	2
合計	45

月別件数



経験年齢別件数

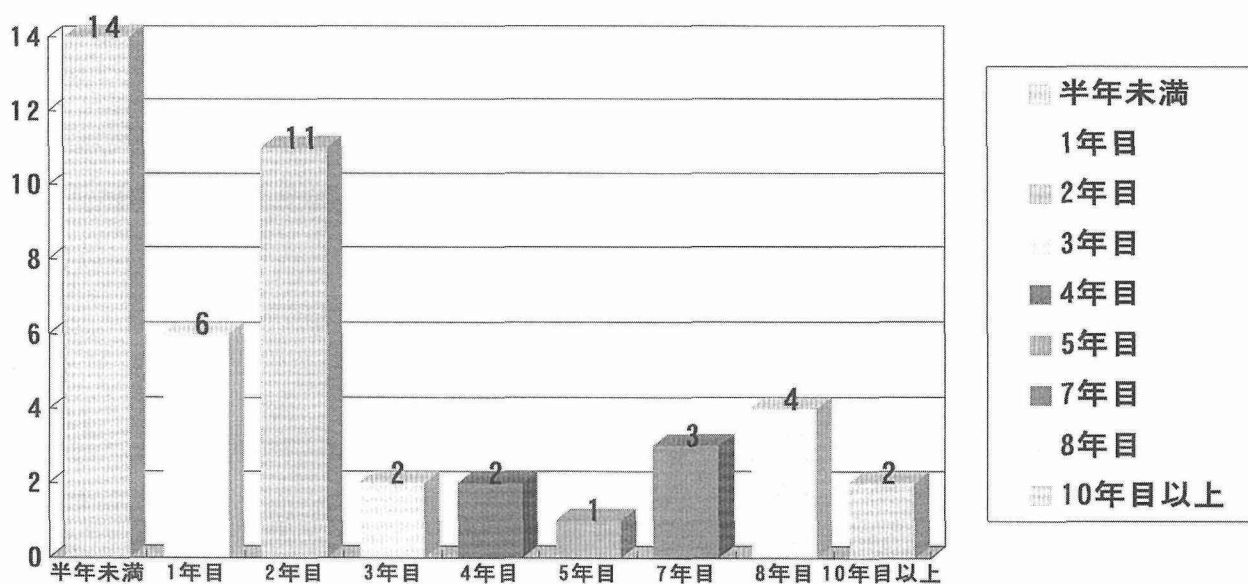
n=45



昨年のレベル3のインシデントの内訳は、薬物（32%）・転倒・転落・傷害（20%）・事故・自己抜去・閉塞（16%）・食事（13%）・治療行為（13%）・その他となっている（下図参照）。

経験年齢別件数

n=45



③対策と今後の方針

今年度も4月に10名を越える新入職員を迎え、同時に5階病棟の療養から一般への変更を行った。4月から3-4ヶ月の間は特にレベル3以上のインシデントが起こりやすい重点期間として、新人職員の教育を含め、注意が喚起される。

1 昨年度は、転倒・転落について集中的に対策を立て、昨年度は誤認・誤薬について安全管理委員会主催で、全職員対象に勉強会を行った。今後も事故発生の詳細な分析を行い、事故のない医療提供システムを構築しなければならない。